

第2回のお茶飲み会 (居場所づくりプロジェクト) を開きました!

居場所づくりプロジェクトでは、一人暮らしや家族がいても日中は一人になってしまい人と会って話す機会が少なくなっているお年寄りに活動メンバーが呼びかけ、昔ご近所でやっていたようなお茶のみの機会を作ろうということで、川原畑地区でモデル的に「お茶飲み会」を始めました。

去る12/2、第2回「お茶飲み会」が開催され、口コミや端末のお知らせを聞いた参加者が生活改善センターに14名も集まり、活動メンバー4名の応援のもと、笑い声、歌声の絶えない会になりました。活動メンバーの皆さんの工夫で、何と、参加費は100円です。

次回は1/26を予定しています。「私の地区でもやってみよう」という方、住民健康課までお問い合わせ下さい。



武田節を歌って皆さん上機嫌

参加者の皆さんの感想

昔はよく集まっては話をした。今日はゆっくり話ができとても楽しかった。

若い人(活動メンバー)に自分の言いたいことを聞いてもらってスッキリした

第1回目のうどんづくりは楽しかった。昔作っていたのですぐ出来る。人にあげるために毎日作ってもいい。

うどんづくりに参加したかった。暖かくなったら、是非やってほしい。

家に居てもテレビを観るくらい。暇なんだから、こういうところに来て皆の話を聞くだけでも楽しい

活動メンバーの声

最初は正直言って、「面倒なことをやらされるなあ」と思ったけれど、お年寄りに「ありがとうね」「また来たいよ」と言われ、本当にやって良かったと思います皆さん、こういうお茶飲み会を待っていたようです。地区ごとのやり方で、道志村中に広がると良いですね。(Y子さん)

皆で歌を歌いたい。出来る人は踊ってもいい。皆に踊りを教えてほしい。

堅苦しくなくて、近場で参加できていい。ふれあいサロンは人が大勢で苦手。ここなら来れる。

楽しく話が出来てよかった。道で会っても、「寒いな」「どこに行く?」など、社交辞令的なことしか話せない。

「道楽会」にお邪魔しました

「道楽会」とは「道志の暮らしを楽しむ会」の略で、新住民の方の会です。3ヶ月に1回定例会を開くそうで、12/13に、未来通信隊スタッフ3名で参加させていただきました。村の暮らしに関する様々な情報交換の場として、活発な議論が繰り広げられていました。「道楽会」の皆さん、ありがとうございました。

活動メンバーの忘年会がありました

12/17、今年最後の活動メンバーの集まりとして忘年会を開催しました。道志村の愉快的な女性パワーで、腹筋が痛くなるほど笑いどおしの会でした。どうも皆さん2010年の活動、お疲れ様でした。

発行責任者:池谷カ三

この事業は平成22年度予算の「高齢者福祉事業調査費」により村民・役場・委託事業者の協働作業で行われております。〈お問い合わせ〉道志村役場住民健康課 52-2113まで

編集後記:昨年は多くの村民の皆さんと話し合いの場を設けることができました。最初は戸惑いを感じた方も、帰り際には「今日は楽しかった」「来て良かった」との一言が、スタッフ一同の励みとなっています。新春号は、聞き慣れない言葉ですが、全体会議で行った「コミュニティビジネス」の勉強会について見開きで特集しています。今年も「安心の村づくり」に向けてがんばります。(Om, Mm, Ns)

「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクト 第2期活動中!

道志村未来通信 6



2011年1月1日新春発行

さまざまな活動の輪が広がっています!

道志村で生活している多くの人たちが抱える「こういうサービスがあつたらいいのに」「車の運転ができないで不便」などなど、我が村に必要なこと、必要なものは何かを考え実行する『世代を超えて安心して暮らせる村づくり』(以下『安心の村づくり』)では、多くの課題が山積しています。

『安心の村づくり』プロジェクトでは、村民が主体となって、村民一人一人の暮らしがよりよくなるような活動を地道に行っています。

少しずつ新しい活動メンバーも加わってきていますが、今年は更に多くの村民の参加を期待しています!



プロジェクト2のミーティング風景

『世代を超えて安心して暮らせる村づくり』

全体会議 (ワークショップ)

プロジェクトを超えて全体に関わるテーマの勉強会や話し合い、各プロジェクトの進捗報告や情報交換を行っています。

第4回は、コミュニティビジネスの勉強会でした。(2,3頁に特集記事を掲載しています)

第5回は、2011年4月から増便になる路線バスをテーマにした話し合いです。

プロジェクトの活動 ●●●現在

プロジェクト1

●お年寄りの生活支援～居場所づくり
現在、川原畑地区にてお茶飲み会試行中!

プロジェクト2

●移動手段のない子どもや高齢者の支援～送迎や買い物代行
路線バスの増便について、総務課にヒアリングしました。移動手段をテーマに第5回全体会議に投げかけます!

プロジェクト3

●道志村のよさをPRし、村民を増やすには
広報誌にどんど焼きの記事をまとめました! 今後、未来通信の編集も進めていきます。

★ご参加下さい!

第5回全体会議 (ワークショップ) のお知らせ 道志村の移動手段について考えよう

～路線バス増便で、道志村での暮らしがどう変わるかを考えよう

2011年4月から、路線バスが2便増えることになるようです。それを受けて、かつて、村でもたくさんのバスが走っていた頃のことを思い起こしつつ、自分で自由にどこかに行かれない人などが、バスを使ってどれだけ暮らしの可能性を広げられるかを皆さんとともに考えたいと思います。ショッピングに、診療所に、道志の湯に、孫の顔を見に、お茶飲み会に、習い事に、友達と遊びに…など、どんな目的がありそうかなど、更に行きたくなるような場所づくりも考えられるのではないのでしょうか?是非、ご参加下さい。

日時: 1/19 (水) 19:00~21:30
場所: やまゆりセンター 1階研修室

活気ある村づくりのための知恵を学ぼう！

現在進めている「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクトでは、これまでの話し合いで出された提案の実現に向け、昨年11月17日、全体会議の中で勉強会を行いました。

講師にお招きしたのは、全国のさまざまな地域で活動を支援している、NPO法人コミュニティビジネスサポートセンターの宮本諭さん。

他都市での事例を聞きながら、コミュニティビジネスとはなにかを学びました。

コミュニティビジネスって何？

市民が主体となり、ビジネスの方法や考え方をつかって、自分たちで自分たちの生活をつくっていく活動です。

コミュニティビジネスの魅力は…

- 1) ボランティアだけでなく、ビジネスの視点ももてること！
- 2) 役場や企業、NPOなどと連携した社会をつくれること！
- 3) 退職後のシニアや主婦、学生たちが主体となって社会貢献できること！

事例紹介

コミュニティビジネスで こんな風に地域がいきいきしています！



「誰もがしあわせな地域」を目指して、地域のニーズをすくい上げ サポート 群馬県桐生市 NPO法人わたらせライフサービス

事例 1

活動のきっかけは、障害のある方の送迎をひとりで始めたこと。依頼にきちんと対応したいと、NPOを立ち上げ、ボランティアの精神とビジネスの手法で地域の課題解決に取り組んでいます。利用者サービス提供者が対等な立場に立てるように、また料金をとってきちんとしたサービスを提供したいという思いから、望まれるサービスを有償にし、継続的に事業運営しています。

ここがあるから安心！主婦がつくったスーパーマーケット

茨城県ひたちなか市 NPO法人くらし協同館なかよし

事例 2

高齢化の進む団地内の商店がなくなったことをきっかけに、地域の要望を聞きながら主婦たちが中心となって、スーパーの運営を始めました。1軒ずつ歩いて支援を取り付けた結果、今では地域のために必要ということを踏まえて、いろんな立場の人が協力をしてこの取組みを支えています。

地域の資源を活用した都市と農村の交流

～ 観光客も増えて、人々がいきいきと働く場に

和歌山県田辺市 秋津野ガルテン

事例 3

もともと地域の課題・解決に向き合い、10年後の未来について話し合う場を持ってきた秋津野で、「廃校を利用して農業を活性化できないか」と、行政も巻き込んだ活動が始まりました。地元の理解を得るために粘り強い説得を行い、出資金を募ることもできました。また、地域のお母さんたちも楽しみながら農家レストランで腕を振るっています。

コミュニティビジネスで大切なことはなんだろう？



地域への想いと協力者の存在

まず第1に地域の課題を考える人たちがいて、その課題を解決したいという想いに共感する人たちができる。そして役場も村民も、社会福祉協議会も、商店主も、大学生も、みんなが同じ方向を向いて活動する…だからこそ、いわゆる一般のビジネスでは決してできないようなことが、コミュニティビジネスでは可能となります。



まずは計画づくり！

目的をはっきりとさせたら、まず計画書。ここで、成果や目標を確認します。そこから具体的にアイデアをどんどんしぼっていくというやり方をすれば、もしうまく行かなくても、また計画・目的に立ち返って、どこがだめだったのか考えることができます。



4つのポイントのバランスがとれていること

1. やりたいこと、たのしいことですか？
 2. 村にとっていいことですか？必要なことですか？
 3. ビジネスとして自立した活動を続けていけますか？
 4. 地域の支えあい、横のつながりはありますか？
- この4つのポイントのバランスを振り返りながら進めることが成功の秘訣です。

役場の仕事として、また、ボランティア活動が支えてきた地域の課題をビジネスの視点で考えるという方法。皆さんはどのように考えますか？



勉強会に参加したみなさんの感想

- ・各部落で月1回でもお茶会ができるようにがんばりたいと思います
- ・村外からの移住者ですが、この村の発展に力になりたいです。
- ・進む方向が多少見えた気がします！
- ・行動力のある人が引っ張ってくれば、私も参加してみたいと思います。
- ・今の立場でできることをやっていきたい。
- ・一歩一歩進んでいけば何かなるかな…何とかしたい！
- ・有償サービスにすれば外出しやすくなる人たちも増えるかも。
- ・やってみたい気持ちもあります。皆で勉強していきながら考えていきたいと思います。まず一歩ずつ。
- ・ボランティア→ボランティアグループ→コミュニティビジネスとつながっていくことは、私もできたらいいなと思っています。
- ・目指す方向性が同じようなのかな、自分たちも道志でできるかも、と思いました。
- ・ボランティアグループをもっと知ってもらいたい！
- ・道志でそんなことができるだろうか？
- ・自分が楽しく皆にも喜ばれる。そんな活動ができれば。